

公園における住民主体の地域活動と公園管理に関する研究

- 横浜市の公園愛護会の活動を通して -

Research on park management and community activities of community-based park in

-Though the activities of park protection meeting in Yokohama-

○平野雄一郎¹, 佐藤慎也²

Yuichirou Hirano, Shinya Satoh

If you look at the TV and newspaper recently, people think about the way of community formation is a little bit more. It has become a more sustainable include the participation to go make it together with the people you invite who wish from the beginning, originated the project. In this study, is defined as the activities of connection between people and community. Therefore it is considered in order to consider it, there are familiar to local residents, as the place where the above restrictions are imposed, be targeted to the park is suitable. As research purposes, it is assumed that capture objectively them in this study whether there What are the different community activities by community-based in the park. To understand whether there is any kind in activities as research methods, I squeeze the park to be surveyed from the literature survey, to conduct a site survey and then, verify the current status of the park, it is done there.

1. はじめに

最近新聞やテレビを見ると、コミュニティ形成の方法について考える人が少しずつ増えている。コミュニティにも様々なものがあり、その中でも初めから希望者を募り、プロジェクトを発信した人と一緒につくっていく参加型のもは持続可能なものとして注目されている。

本研究では、コミュニティを人と人とのつながりによる活動と定義する。これは、他者からの目線や言動による制限、内容や使用できるものへの行政側からの規制など、活動の限界がないと統率が取れにくく展開していかないと考えられる。そこで、コミュニティを考えるためには、住民になじみがあり、上記の制限が課されている場所である、公園を研究対象とすることが適している。

2. 研究目的

公園が形成されるにあたり、コミュニティは重要な要素を持つ。利用頻度や利用者の層という観点から考えた場合、公園における住民主体による地域活動にはどのようなものがあるのか、本研究ではこれらを客観的にとらえることを目的とする。

3. 既往研究

板橋区の住民主体の公園管理活動と周辺に与える影響¹や、花壇の設置による地域住民の公園管理²が、研究されている。しかし、本研究では、市単位で調

査を行い、地区ごとの特性を分析することで、人々の関わり方にどのような変化があるかを検討する。

4. 研究対象

本研究では、公園内において、地域住民が主体となつて行っている活動を対象とする。そのために、公園愛護会という団体に焦点を当てる。これは地域住民によるボランティア団体であり、特定の公園に対して市や県から管理を任される立場にある。本研究では、横浜市の公園の内、面積 6,000m² 以上の面積を持つ公園の公園愛護会を研究対象とする。

5. 公園愛護会の概要

5-1. 横浜市における公園愛護会

一般の公園愛護会（以下、愛護会）は、自治会や老人会、商店会所属の人々が、住民に呼びかけを行い、集まった人たちで結成される。その後、自治体へ申請し、承認を得てから活動可能となる。愛護会が結成されると、自治体が物品の貸し出しや助成金、技術提供による活動の援助を行う。

その中でも横浜市の愛護会は、歴史が古いことと結成率が非常に高いことが特徴として挙げられる。一般の愛護会と異なり、公園建設後に、市から周辺に住んでいる住民または企業に結成が呼びかけられる。有志の希望者が複数人集まった場合、愛護会を結成する。その後の手続きは、一般の愛護会と同様である。

また、横浜市の愛護会が抱える問題として、愛護会

活動が地域住民に知られていないため、自治体から報酬を受けて請け負っている仕事と誤解されることが挙げられる。

5-2. 公園愛護会の主な活動内容

ほとんどの愛護会では、公園の清掃・除草や樹木への水やり、公園利用者へのマナーの呼びかけなどを行う。

6. 研究方法

6-1. 文献調査

横浜市のHPを参照して、18の区にある約2,600ヶ所の公園から、民間で管理しており、面積が6,000㎡以上のものを選定する。

6-2. 実地調査

文献調査で絞り込んだ約160カ所の公園の実地調査を行い、設置場所、園内の周辺環境・自然や設置器具、愛護会活動内容を把握する。そして、市が管理している公園と比較する。

7. 調査による分析

7-1. 管理方法の比較

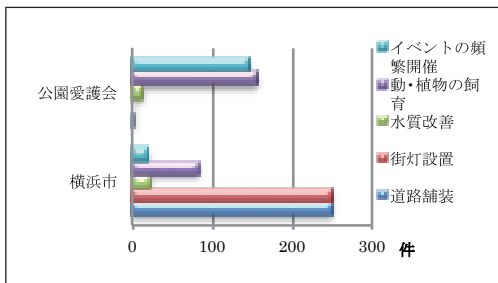


図1 愛護会と市の管理の方法の比較

図1のように、横浜市が管理している公園は、道路舗装・街灯設置がすべて施されており、十分に整備されている。一方で、愛護会が管理している公園は、主に動・植物の飼育やイベントの頻繁開催を行っている。市が管理している公園と異なる点は、管理者が頻繁に公園へ足を運んでいることである。

7-2. 公園の周辺環境の比較

愛護会が管理する公園について、公園の周辺環境の分類(表1)を行った(図2)。住宅街の公園が最も多く、公園内でイベントをやる際に騒音や来訪者の行き来が生じる点から、住民の協力が不可欠であると考え。そのため、事前に告知を行い、住民の参加を呼びかけ、一緒に盛り上げる必要がある。

表1 周辺環境の分類

項目事項	定義内容
行政加担	現在進行形で開発されているもの
小川	公園と接しているまたは園内にある
住宅街	公園の3辺が住宅と面しているもの
学校	学校と隣接しているもの
山	山頂及び山の中腹に位置しているもの
団地	団地のなかに設置されているもの

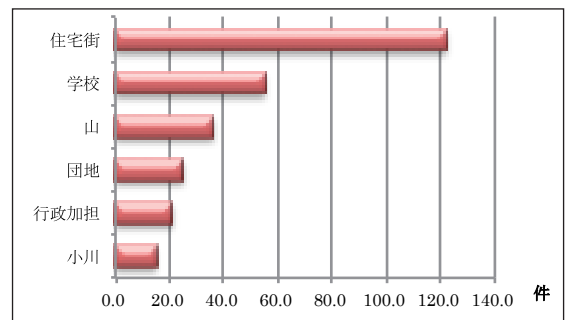


図2 周辺環境の比較

4. 結論

今回の研究では、公園愛護会という住民主体の地域活動を行う団体を通して、人と人とのつながりを考えた。しかし、横浜市のアソビ会が抱える問題として、周辺住民との意思疎通の難航が挙げられる。これが解消されないと、お互いの意見を交換することが出来ない。つまり、人と人とのつながりが遮断されてしまう。多種多様な人々に関わるが、その一つの解決策として、お互いの目的を明確にし、時間をかけ理解し合うことが挙げられる。このような丁寧な手順を踏めば、一緒に参加出来る可能性へ繋がっていくのではないかと。

5. 参考文献

- 1) 篠田尚紀、仲村明代、伊藤香織：住民主体の公園管理活動がもたらす効果 - 板橋区における公園里親制度の事例から、学術講演梗概集、pp669-670、2007.07
- 2) 岩村高治、横張真：神戸市における地域住民による公園管理の実態とその展望、日本造園学会 p671-674、2001.03
- 3) 山崎亮：コミュニティデザイン - 人がつながるしくみをつくる、学芸出版社、2011.06.25
- 4) 笥祐介：地域を変えるデザイン - コミュニティが元気になる30のアイデア、英治出版、2012.04